

## ● 介護施設従事者等による高齢者虐待の実態 (2)

### ● 高齢者虐待と思われる行為★の特徴

- 心理的虐待の多さ  
(事実確認や判断の難しさから、通報等の対象になる場合は身体的虐待などが増える)
- 身体的虐待や介護・世話の放棄・放任(ネグレクト)が心理的虐待に次いで多い
- 「緊急やむを得ない」場合以外の身体拘束が一定数存在

(★認知症介護研究・研修センターの調査結果から、調査では回答者が「高齢者虐待」であることを判断したため、「高齢者虐待と思われる行為」と表記)

## ● 介護施設従事者等による高齢者虐待の実態 (3)

### ● 高齢者虐待と思われる行為を受けた利用者の特徴

- 年齢が高く後期高齢者(75歳以上)が大半
- 要介護度がやや高い
- 認知症の人の割合が高く、意思疎通の難しさ等の関連する問題がある

・行動・心理症状(BPSD)の存在  
・特に攻撃的言動や介護への強い抵抗がある場合

### ● 高齢者虐待と思われる行為を行った職員の特徴

- 年齢・性別・職種などに大きな特徴は考えにくい
- 個人的な特性以上に、組織的な問題に関わる職務上の背景要因が考えられる。

## ● 介護施設従事者等による高齢者虐待の実態 (2)

### ● 高齢者虐待と思われる行為★の特徴

- 心理的虐待の多さ  
(事実確認や判断の難しさから、通報等の対象になる場合は身体的虐待などが増える)
- 身体的虐待や介護・世話の放棄・放任(ネグレクト)が心理的虐待に次いで多い
- 「緊急やむを得ない」場合以外の身体拘束が一定数存在

(★認知症介護研究・研修センターの調査結果から、調査では回答者が「高齢者虐待」であることを判断したため、「高齢者虐待と思われる行為」と表記)

## ● 高齢者虐待の考え方 (3)

### ● 「高齢者虐待」を考えるための2つの視点

① 報道などで顕在化した高齢者虐待以外にも、気付かれない虐待がありうる

- 意図的な虐待だが表面化していないもの(意図的虐待)
- 結果的に虐待を行ってしまっているもの(非意図的虐待)
- 「緊急やむを得ない」場合以外の身体拘束

② 明確に「虐待である」と判断できる行為の周辺には、判断に迷う「グレーゾーン」が存在する

- 「虐待である」とは言い切れないが「不適切なケア」
- 明確な線引きはできず、「不適切なケア」を底辺として連続

## ● 高齢者虐待の考え方 (4)

### ● 「不適切なケア」から考える

- 「介護施設従事者等による高齢者虐待」の問題は、「不適切なケア」から連続的に考える必要がある
- 虐待が顕在化する前には、表面化していない虐待や、その周辺の「グレーゾーン」行為がある
- さらにさかのぼれば、ささいな「不適切なケア」の存在が放置されることで、蓄積・エスカレートする状況がある

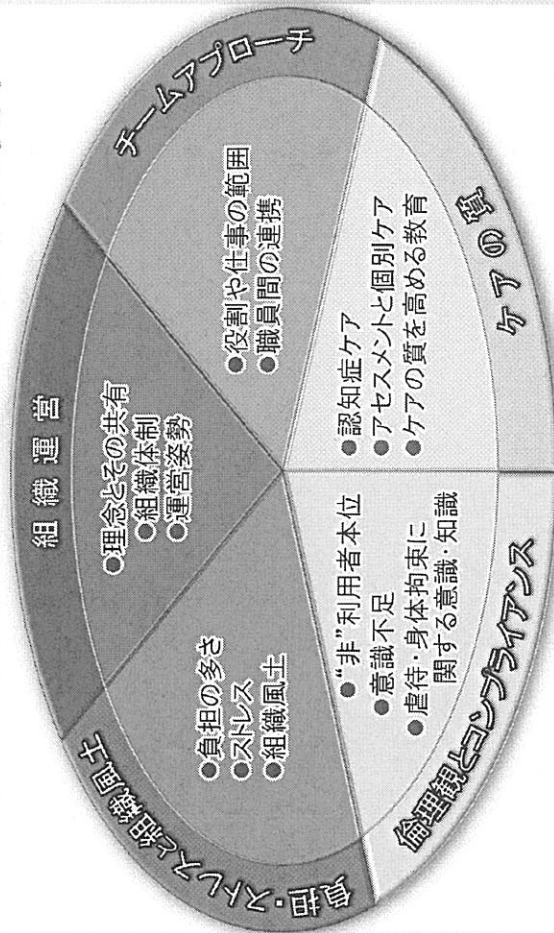
「不適切なケア」の段階で発見し、「虐待の芽」を摘む取り組みが求められる

## ● 高齢者虐待・不適切なケアの背景

- 背景となる要因を捉える
  - ・ 組織運営は健全か？
  - ・ 負担・ストレスや組織風土の問題はないか？
  - ・ チームアプローチは機能しているか？
  - ・ 倫理観を持ち、コンプライアンス★を考えているか？
  - ・ ケアの質は保たれているか？ (★法令遵守)
- 直接的に虐待を生みださなくとも、放置されることでその温床となり、虐待発生を助長する
- 「不適切なケア」の背景要因としても捉えられる
- 背景要因は相互に関連していることが多い

13

## ● 養介護施設従事者等による高齢者虐待の背景要因



(★作成にあたり三瓶徹氏(北広島リハビリセンター・特養部四恩園施設長)作成の資料を参考にした)  
© SENDAI DCRC

## ● 高齢者虐待・不適切なケアへの対策の基本③

- 高齢者虐待・不適切なケアを防ぐために何をすべきか
  - 背景要因を解消する (背景要因は相互に強く関連→多角的に取り組む)
  - 不適切なケアを減らす (虐待の“芽”を摘む)
  - 利用者の権利利益をまもる適切なケアを提供する
  - 結果的に高齢者虐待の防止が達成される

15

## ● 高齢者虐待・不適切なケアの防止策①

### ● 組織運営の健全化

- 「理念とその共有」の問題への対策
  - ① 介護の理念や組織運営の方針を明確にする
  - ② 理念や方針を職員間で共有する
  - ③ 理念や方針実現への具体的な指針を提示する
- 「組織体制」の問題への対策
  - ① 職責・職種による責任・役割を明確にする
  - ② 必要な組織を設置・運営する
  - ③ 職員教育の体制を整える
- 「運営姿勢」の問題への対策
  - ① 第三者の目を入れ、開かれた組織にする
  - ② 利用者・家族との情報共有に努める
  - ③ 業務の目的や構造、具体的な流れを見直してみる

16